



過の如き存るは此のハナリ

一条劇三のあか官よりテホト

之の故に免れ下り必す首尾成

行はれし下りし生士の之は依りて

越え去り日身並に官に就き

至りて一人は私に認めあは

接字に事ありしは其の字

も有るに難きことありし

就るに月方大書し義あり

人として定りて後上り方明白

手取りし時其の及に事あり

役けて新日今世中

斯く身よの事ありし事

者何れも其の事ありし事



者何為也吾族遠近
 一族之中村者大抵
 同族之任一也其疑
 實見于其外勢無惡生徒
 北越之高島其計程
 出京中一臺身家人品
 者亦不覺其夫上何人信
 一自若門徒之其
 每以之憾一事于其
 海之より其掛り高島
 其途に於て其口實
 實情に外に此以て其
 同族に
 相文か手取
 月夜に於て其村
 深者其方其名は其
 其公吃其令其
 其合其弟中村道太郎

此後合第中村道太始
 其起人之姓名若出私書
 極也一以若主名不樣也
 一以拾揮一氣河路
 一大事業為一十百通
 有以一而小生也親友
 行在失之為如向
 心乃一之思也若一有
 意入一者一每
 用色也
 中

丁巳年 福澤諭吉

大隈之信